

都市再生整備計画(第3回変更)

かみおか
神岡地区

あきた 秋田県 だいせんし 大仙市 きゅうかみおかまち (旧神岡町)

平成21年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	秋田県	市町村名	だいせんし きのみおかまち 大仙市(旧神岡町)	地区名	かみおがく 神岡地区	面積	207 ha
計画期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度	交付期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度				

目標

大目標：2核の地域交流拠点の創造と、コンパクトな町の特性を活かした良好な居住環境の形成

- 目標① 来訪者との交流の場(駅周辺)、市民生活の交流の場(文教ゾーン)となる二つの核づくりにより中心市街地に賑わいを創出し地域の活性化を図る
- 目標② 豊かな自然を活かした水と緑のネットワークを構築するとともに、多様なニーズに対応した優良で安価な住宅づくりを推進し、人口の定着を図る
- 目標③ 神宮寺バイパスからのアクセス道路の整備と、歩行者に優しい安全で楽しい回遊性のあるまちづくりにより来訪者の誘導を行い、地区の空洞化を防止する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・旧神岡町は秋田県南部に位置し、圏域中心地である旧大曲市と隣接している。人口は平成16年4月1日現在6,130人で、他の地方都市同様減少を続けているが、高速交通体系や自然環境などの恵まれた立地条件によりその減少傾向は緩やかであり、核家族化により世帯数(平成16年4月1日現在1,835世帯)は増加傾向を示している。また高齢化が進展している一方、若年層の人口に対する割合も比較的高く(県内で4番目)、お年寄りと子育て世代に住みよい住環境の提供が求められている。
- ・旧神岡町の基幹産業は稲作を中心とした農業であり、特産品は農産物やその加工品が主であるが、昨今の農業情勢から来る農家経営の困難さから、就業人口は減少の一途をたどっており、他産業との連携による多角的な経営が求められている。
- ・神岡地区は、旧神岡町の中心市街地である神宮寺駅を中心とした半径約1km圏内で主要公共施設等が集積している、旧神岡町の行政、文化、経済等、市民活動の中心となる地区である。
- ・旧神岡町では旧大曲市や秋田市への通勤通学者が多く、地価が旧大曲市の約1/4から1/2と安価であることから、ベッドタウンとしての開発ポテンシャルも高い地区であるが、これまで計画的な住宅団地等の整備は行っていないため、無秩序な開発が進行しつつあり、特に神岡地区西部の下川原地区では早急な対応が求められている。また、公営住宅や、市内の民間賃貸住宅も常時満室の状態となっていることから、道路、公園、上下水道等の生活基盤の整った低層戸建ての良好な住宅地の供給が必要とされている。
- ・旧神岡町は平成8年に都市計画区域の指定を受け、将来のあるべき姿について住民参加の下、数年間の議論を経て平成14年に都市計画マスタープランの策定をしている。この間、平成10年には国道13号の神宮寺バイパスが都市計画決定後事業化されたが、計画決定に際してはバイパスが通ることにより既存市街地内の交通量が減少し、渋滞の解消や騒音、交通事故の減少による住環境の向上といったメリットと、通過交通の減少による市街地の空洞化や地域経済への影響が懸念されていた。
- ・旧神岡町の特産物としては、全国的にも有名な刈穂、福の友といった酒造や醸造蔵の他、基幹産業が農業であることから農産物やその加工品が挙げられるが、これらの販売促進と地域情報の発信を目的として平成8年「道の駅かみおか」がオープンし、さらに平成9年には地産地消と都市と農村との交流を目的としてかみおか温泉「嶽の湯」がオープンしている。また、マスタープランの策定と並行して、平成12年、13年度には旧神岡町商工会が中心となって経済産業省の補助を得て「地域振興活性化事業」を実施し、総勢150名余りの住民参加の下、さらなる地域資源の掘り起こしと活用策について、具体の検証を行った。この中では特産品の開発やグリーンツーリズムを含む観光ルートの開発とそれを紹介する市民ガイドの養成など様々な試みを行っている。
- ・上記のような取り組みにより旧神岡町の知名度が高まり、酒蔵見学や地域観光資源を目的に来訪希望者が増えつつあるものの、市街地内にはこの受け皿となる施設がないため、酒造や醸造品、また「地域振興活性化事業」で開発した特産品等を活用した、情報発信・ふれあい施設の整備が望まれている。
- ・このような状況の解決を図るため、平成14年度にまちづくり総合支援事業導入の検討(予備調査)を実施し、旧神岡町都市計画マスタープランや大曲都市計画区域マスタープランより神岡地区のまちづくり目標の整理を行なった。また平成15年度には、住民、有識者、民間企業(地元企業・JR)、県、国(国土交通省)、関係課の総勢17名によるまちづくり推進協議会(平成15年度は5回実施で、今後も継続開催予定)を立上げ、予備調査で策定した内容(まちづくりの目標および事業内容)についての議論を行ない、整備方針についての賛同が得られている。さらに平成16年4月には、地域住民に対して本事業への賛否を問うアンケート調査を実施し、66.4%の賛同を得ている。

課題

- ・人口の定着を図るため、高齢者、子育て世代が住みやすい安価で良好な居住環境を形成する必要がある
- ・国道13号バイパス(神宮寺バイパス)の開通によるストロー現象を防止するため、魅力ある市街地の整備を図り、加えてアクセス道路の整備による交通(観光客)の流入を図る必要がある
- ・市の特産品や地域資源を活用した地域交流拠点を、老朽化した駅舎改築にあわせ整備し、周辺商店街と連携を取った地域振興を図る必要がある
- ・スポーツやイベント等、地域住民の余暇活動を幅広くサポートできるよう、現在スポーツ文教施設が集積している下川原地区に公園を配置し、地域交流の相乗効果を図る必要がある

将来ビジョン(中長期)

神岡地区のまちづくりのキャッチフレーズ:『お年寄りと子育て世代が住みやすいコンパクトで安全なまちづくり』

- ・旧神岡町の第2次総合発展計画において、快適な生活が営めるよう居住環境(基盤整備)と温泉保養施設、地理的条件を活かした宅地造成、住宅整備を図ると位置付けられている。また、生きがいのある福祉のまちづくりを進めるため、核家族の進行による介護能力低下に対応した福祉の充実、女性の就労の増大に対応した保育施設の条件整備を図ると位置付けられている。
- ・旧神岡町都市計画マスタープランにおいて、当地区は市街地ゾーンに位置づけられており、駅周辺は中心市街地の拠点として交通の円滑化や周辺商店街の活性化を図り旧神岡町の玄関口としての機能を充実させるとなっており、地区西部の下川原地区は市街化促進地区として、住宅地開発による人口定着を図るとともに、市民の交流と余暇活動の中心拠点として公園・レクリエーション施設の整備を図ると位置づけられている。
- ・旧神岡町は旧大曲市他7か町村との市町村合併(平成17年度)により大仙市となっているが、大曲都市計画区域マスタープランにおいても、当地区は旧神岡町の顔となる駅周辺の生活拠点整備、神岡地区西部周辺の居住環境の形成・レクリエーション拠点の整備、市内の都市内骨格道路の形成等を図る地区として位置付けられている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
下川原地区の定住人口	人	一般宅地開発分+高齢者生活支援ハウスの居住人口	良好な居住環境の形成による人口定着	0	H16	200	H20
中央公園利用満足度	%	アンケートによる満足度(従前は都市マスアンケート)	交流拠点整備による地域交流の促進	16.6	H16	33.2	H20
中央公園利用者数	人/年	中央公園年間利用者数	交流拠点整備による地域交流の促進	0	H16	26,000	H20
神宮寺駅舎等年間利用者数	人/年	神宮寺駅舎+民間施設「福乃友の蔵」の年間利用者数	良好な居住環境形成による人口定着、および駅を中心とした交流拠点整備による地域交流促進	231,775(駅乗降客数)	H15	256,960	H20
神宮寺駅利用者満足度	%	アンケートによる満足度(従前は事業前アンケート)	良好な居住環境形成による人口定着、および駅を中心とした交流拠点整備による地域交流促進	20	H19	50.0	H20
地区内人口の減少率	%	事業実施前5年間の減少率と事業実施後5年間の減少率	良好な居住環境の形成による人口定着	-5.0	H15	-2.5	H20

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1（二つの核づくり）</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央公園は下川原周辺の既存施設（市営体育館、嶽の湯等）にない機能を持たせた多様なニーズに対応した整備を行なうことで、地域交流の強化を図るとともに、各施設利用の相乗効果を図る。 来訪者の活動拠点としての機能を持つ民間施設「福乃友の蔵」と神宮寺駅舎、地域生活基盤としての駅前交流広場、北口交通広場、また道路事業として神宮寺バイパスからのアクセス道路を整備することにより、駅利用者の交通機能強化と交流機能強化を図ることは基より、中心市街地にぎわいを取り戻し、地域の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①中央公園（基幹事業） ②神宮寺駅舎（提案事業・関連事業） ③駅前交流広場、北口交通広場（基幹事業） ④駅北線（基幹事業） ⑤公園案内板（基幹事業）
<p>整備方針2（人口の定着）</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街化促進地区として位置づけられている地区西部の下川原地区に安価で良好な居住環境の整備を図るとともに、幼稚園保育園一体施設や高齢者生活支援ハウスの整備を行なうことで、お年寄りから子育て世代が住みやすい環境を提供し、人口定着を図る。 公園事業により整備する中央公園、幼稚園保育園一体施設などの公共公益施設を集積することで住む人の利便性を向上させ、相乗効果を図る。 地方特定河川等環境整備事業により整備された中川原コミュニティ公園や観光交流空間づくりモデル事業により予定されている雄物川を活用したカヌー発着場と、中央公園等の公園を拠点として整備することにより、緑と水のネットワークを構築し、潤いのある良好な居住環境の形成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①下川原1～3号線（基幹事業） ②中央公園（基幹事業）、下川原街区公園および緑道（基幹事業） ③公園案内板（基幹事業） ④下川原地区宅地開発（提案事業・関連事業、市） ⑤幼稚園保育園一体施設（提案・関連事業、市） ⑥高齢者生活支援ハウス（提案・関連事業、市） ⑦地方特定河川等整備事業（関連事業、市） ⑧公共下水道第1次認可事業（関連事業、市）
<p>整備方針3（空洞化の防止）</p> <ul style="list-style-type: none"> バイパスからの来訪者を既成市街地内へ呼び込むためアクセス道路の整備をするとともに、観光案内板を整備して地域交流拠点へ来訪者を誘導することで、地域活力の空洞化を防ぐ。 歩行者が安心して歩行できる道路整備をするとともに、訪れた観光客が、神宮寺駅から「福乃友の蔵」および下川原文教プラザを中心として地域資源を訪ねながら回遊できるまちづくりを行うため、情報案内板の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①大坪線（基幹事業）、駅北線（基幹事業）、下川原1号～3号線（基幹事業） ②観光案内板（基幹事業） ③神宮寺バイパス整備事業（関連事業、国）
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業終了後の継続的なまちづくり活動 当地区では、平成15年度に発足したまちづくり推進協議会を今後も継続的に開催する。また、旧神岡町商工会が中心となって「地域振興活性化事業」により特産品の開発やグリーンツーリズムを含む観光ルートの開発とそれを紹介する町民ガイドの養成など様々な試みを行っていることから、こうした団体とも連携し、地域交流・地域活性を図る。 ○イベントの市民参加を図るための方策について 神宮寺駅舎や中央公園の整備にあわせて、地域交流を図るためのイベントについて、まちづくり推進協議会や商工会との連携により具体化するための方策を検討する。また、市のホームページを利用するなどして、市民より意見等を集約する。 ○交付期間中の計画の管理について 交付期間中において各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるために、まちづくり推進協議会を今後も継続的に開催し、毎年、事業成果について評価や事業の進め方の改善等を行うためのモニタリングを実施する。その結果については、随時、市民に情報公開する。 	

都市再生整備計画の区域

<p>神岡地区(秋田県大仙市)</p>	<p>面積 207 ha</p>	<p>区域 大仙市神宮寺字家後、蓮沼、本郷野、本郷下、本郷道南、屋敷南、上栗谷田、下栗谷田、荒屋入、新屋野、中瀬古屋敷の全部と大仙市神宮寺字西田、沢田、館越中島、館の北、神宮寺、上新川中島、吉貝人着、新川中島、藤保、釜ヶ淵南、下川原前開、大坪街道下、荒屋、大浦前、竹原、海老坪、大浦、内大坪、大坪の一部</p>
----------------------------	------------------	---



